

# 砂漠通信

## THE DESERT REPORT NO.56

- 1 国際団体としての申請準備
- 2 ゴビ砂漠緑化の現地報告(寺西会員)
- 3 エチオピア、再び渡航制限に
- 4 2018 新春講演会(要旨)
- 5 森林公園整備に参加を！森田副会長

NPO 法人 世界の砂漠を緑で包む会  
 〒921-8015 TEL 076-292-0038  
 HP : http://www8.plala.or.jp/tutumkai  
 2018年 春号  
 発行：NPO 法人 世界の砂漠を緑で包む会  
 編集：「砂漠通信」編集委員会  
 Address : Post Cord 〒921-8015, 2-26-2,  
 Touriki-machi, Kanazawa City,  
 Ishikawa Pref. JAPAN

## 国際的緑化団体として申請へ 世界の砂漠を緑で包む会

### 国連砂漠化対処条約 活動が高く評価される

#### ◇発端はモンゴルでの締約国会議

「世界の砂漠を緑で包む会」が国際的な砂漠緑化団体として登録されようとしています。2017年9月4～15日以内モンゴル、鄂爾多ス(オールドス)にて開催された第13回国連砂漠化対処条約締約国会議に、アラ善(アラシャン)で砂漠緑化に邁進する「世界の砂漠を緑で包む会」(当会)専務理事) 呉向栄氏が出席したことがこの始まりです。この条約に、当会団体の登録の勧誘があり、本部での参加手続きを要請されました。

同条約は、1996年12月発効し、貧困の削減及び環境持続を支えるために、砂漠化、土地劣化の反転と防止、干ばつに因る影響の削減を目標としたグローバルパートナーシップの促進を目指しています。当会の砂漠緑化活動が関係者に注目され、当会に団体登録の勧誘があったもので、世界の砂漠を緑で包むことを目指す当

会に取っても大変名誉なことです。

#### ◇ボン(西ドイツ)へ申請準備

早速、同条約機関の本部であるドイツのボンに仮申し込みしたところ、正式申し込みをとの依頼を受けました。同条約に関連した砂漠緑化団体登録には当会の活動内容を証明する様々の書類提出が必要であり、大澤会長の強い参加意欲を受け、その作業を進めています。アラシャンに始まる当会の海外緑化活動も、年月を経て着実に広がっており、会員各位の更なる参加活動やご支援を願ってやみません。(文責：吉崎光博)

#### ◇JICA等イベントで情報交換も

同会議のサイドイベントでは環境省やJICA、砂漠化対処を乾燥地科学の見地から研究する鳥取大学、中国科学院生態環境資源研究院の研究者らが研究発表と情報交換の場を設定し、市民社会団体などの参加者と交流が行なわれました。

### 砂漠化対処条約 (UNCCD)

砂漠化に対する計画と実施  
 深刻な干ばつまたは砂漠化に直面する国(特にアフリカの国)において砂漠化に対処するための国際連合条約 (UNCCD)  
 具体的には砂漠化に対処するための行動計画の策定と実施。

#### 科学技術委員会も設置

また、そのことを先進締約国が支援すること等を規定した条約。相当の資金量を提供するとともに「地球環境ファシリティー」(GEF)からの資金提供を促進、更に科学技術的および技術的事項を提供する機関として科学技術委員会(CST)を設置する。

1992年より国連環境開発会議(UNCED)において政府間交渉委員会設置で合意。1996年条約発効。第1回締約国会議は1997年(COP1・ローマ)。2年ごとに開かれ、第13回締約国会議は2017年に内モンゴル・オールドスで開かれた。

### 石川県がCO2吸収証書

#### 森林公園での活動が認められる

石川県は地球温暖化対策の一環として「いしかわ版CO2削減活動支援制度」を推進していますが、「世界の砂漠を緑で包む会」は去る2月6日、森林整備活動CO2吸収証書を授与

された。この活動は津幡町にある森林公園において除草やサクラの樹などの植樹、緑化活動を行なっている

ことが評価されたもので、助成金5万円も受け取った。

【左下は県発行の証書】



## 第21回定時総会

# 5/6

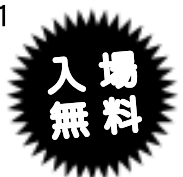
(SUN)

参加しましょう!



- ◆日時 2018年5月6日(日曜)  
受付：午後1時15分 開会：1時30分
- ◆会場 金沢市西部環境エネルギーセンター  
金沢市東力町ハ30-1 電話 076-291-6641

<プログラム> \$ 13:30 開会 挨拶・議長など選出  
 \$ 13:35 議事開始  
 \$ 14:30 総会 終了





左：見渡す限りの広大な砂漠 中：緑化によるグリーンベルトと筆者 右：緑化に取り組む若者達

【現地報告】 寺西チヨ子会員・ゴビ砂漠緑化帯を語る

# 驚嘆の20km グリーンベルト

## 逞しく咲くピンクの花！ 大沢会長等の努力に感動

2008年

### ★退職後の生きがいには砂漠緑化こそ！

思い起こせば、私が砂漠へ行くようになったのは、同僚のKさんが砂漠緑化に行ってきたことからでした。春先、日本へ大陸からの黄砂が年々運ばれてくるようになり、洗濯物が外に干せない日もありました。そんな矢先に同僚のKさんより、ゴビ砂漠で植樹活動に行った話を聞きました。公害に苦しんでいた日本。退職後はこれだと思い実践計画を立てました。

### ★広大な砂漠での緑化活動に敬意

3月の退職を待ち、2008年、早速隊員として内モンゴル自治区、ゴビ砂漠へ飛びました。銀川からの景色は見る間に岩山ばかりの景色へと変貌し、次は小砂利と砂の荒漠原野そして砂丘が続きました。JICAの研修センターが砂漠の真ん中にあり、その周囲はすでに植林活動が行われ、力強く木々が育っていました。しかし、砂丘に目を向けると広大な砂漠が目前まで押し寄せてきているのがわかりました。

現会長の大沢さんや現地の専務理事で

ある呉さんから今までの取り組みをプレゼンで紹介していただき、周囲の緑化も失敗の連続の中、やっとたどり着いた緑であることを知り自分の甘さと今日まで取り組んできた関係各位の尽力に頭が下がりました。

2017年

「一木一草」。一本の木を植えなければ森は育たない。一本の草を育てなければ草原は広がらない。「やればできる。やらなければできない。」鳥取大学の遠山先生の言葉。

### ★家族から緑化など出来るの？疑義

しかしそのうちに自分の中に大きな疑問もわいてきました。世界第4位という広大なゴビ砂漠。「この広大な砂漠の植樹は本当にできるのだろうか」、家族にも友人にも言われた言葉でもあります。そんな思いの中、砂漠通いに4年間のプランクができました。

### ★現地の仲間から夢果たそうのメール

その間、砂漠で知り会った友人や娘のような鄧さん(とう)からメールが何度

も届き「お母さん、どうして砂漠に来ないのか。お母さんと一緒に夢を果たしたいです」そんなメールが届き、心が痛みたどり着いた答えを出しました。

それは1粒の点でもいいのだということです。実行することで木も育ち、砂漠通信に「グリーンベルト地帯約20キロ」という見出しが出ていたことで心も大きく動き、砂漠に行こう、みんなに会いに行こうと2017年8月ゴビ砂漠へ再び行きました。

### ★中国全土から来た若者の植林に感激！

そこでビックリしたことは、ずっと日本人のボランティアでやっていた植樹緑化に、中国の若者が北京、上海から来て植樹活動をしていたのです。1粒の点だった緑化活動の様子を専務理事である呉さんがインターネットで中国全土に配信していたこと、大沢会長がずっと砂漠へ通い続けていたことなどが大きな要因だと思いました。この4年間で中国人の環境に対する意識も高まりました。1粒の点が今大きく開こうとしています。正に砂漠に本物の花が開きました。砂丘地に花棒のピンクの花がたくましく咲いていたのです。

会の承認を得て決定しました。

「世界の砂漠を緑で包む会」は、持続的に活動できる仕組みを確保していることや目的にふさわしい活動を企画・実施・情宣しているという選考基準を満たし、石川県代協の植樹活動に参加してもらっていることにより選定されました。(植樹活動は平成25年から、継続して行っている。グリーン基金の寄付は、平成24年度から継続している。)

石川県代協では2月23日(金)ホテル金沢にて、贈呈式を行いました。石川県代協は今後も、「世界の砂漠を緑で包む会」が行う社会貢献活動への参加などを通じて相互の交流を深め、地域社会への貢献を進めていく方針です。

## 日本代協グリーン基金より寄贈

### 「世界の砂漠を緑で包む会」 持続的活動が評価され10万円



日本代協(日本損害保険代理業協会)は、2017年度のグリーン基金の寄付活動として、25団体・195万円の寄付を決定しました。

グリーン基金とは、日本代協が行っている社会貢献のための寄付活動で、植林、河川・海岸保全等の自然保護活動に実績のある団体に対して寄付を行っています。

2017年度のグリーン基金は、2017年10月1日から12月31日まで日本代協のホームページで公募を行い、応募した団体の応募要件、適格性等を日本代協CSR委員会、外部の有識者を交えたグリーン基金選考委員会で厳正に審査し、理事

## 森林公園の下草刈り、植樹ボランティア

今年も下刈りをして、秋に植樹する予定です。鎌で木の周囲の草を刈る作業には、是非多くの方に参加して頂きたく願います。汗を流した後は爽快ですよ。(6月~10月の内の数日で、日程は電話で確認して下さい) \*4面参照

# 非常事態宣言が出され活動難航

## エチオピア JICA も邦人の渡航を制限

### ◇治安悪化で再び足踏み状態に

エチオピア事業については、今期の雨季に備え、苗畑灌漑用の溜池建設、施工業者の公募を2月に計画しておりましたが、再び、現地の治安問題が悪化し足踏み状態が続いています。

当該事業の開始時期から、折悪しく現地の民族問題(少数民族政府の強権政治により、多数派民族の反発に起因する全土へのスト拡大が始まり)1 昨年(2017年)の10月に国内非常事態宣言が出され、半年間事業中断を余儀なくされた経緯があります。

### ◇現地事務所再構築の矢先に

同宣言が説かれ昨年夏、ようやく現地当局の認可が得られ、秋から現

地職員を新たに採用した、現地事務所を再度立ち上げ、年末から現地住民の環境教育を開始し、年明け当該事業の本題である、溜池建設に着手しようとした矢先の出来事でした。

### ◇早期の治安回復を祈るばかり

今回の治安問題は、国内での反政府活動が再び活発になり、首相が退陣に追い込まれ、後任首相選任が難航していることが原因です。新首相が決まれば落ち着くのですが…。この間、JICA(国際協力機構)エチオピアが万一に備え、関係邦人の現地渡航を制限しているため、当会担当者も2月以降何度も渡航計画を延期させられています。事業再開の為、早期の治安回復を願うばかりです。

## 金沢市国際交流財団 60,000 円の助成金決定

公益財団法人金沢国際交流財団(KIEF 代表理事・山崎光悦 金沢市本町リーファーレ2F)はこのほど「世界の砂漠を緑で包む会」に対し、活動助成金として60,000円を交付することを決めました。助成金は、金沢市および周辺地域で、その特性を活かし国際的な文化活動などを通じて国際の平和とその改善に資することを掲げて事業を進めている団体を支援するというもの。「世界の砂漠を緑で包む会」では毎年多文化交流などのイベントにも参加しています。

この助成金は、2月18日開催した、講演会(4面掲載)経費の半額を助成する制度です。

## 石川県企業の森づくり 251,000 円の助成金決定

石川県は「世界の砂漠を緑で包む会」に251,000円の助成金をきめました。これは企業、団体等が社会貢献活動として森林整備活動を実施した際に、その活動の社会に対する貢献度を数値化して認証し、それによって企業・団体などの森づくり活動を推進することを目的とし、植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐等に要した経費を助成するものです。

去る2月18日(日曜)午後1時30分より、金沢市西部環境エネルギーセンター会議室で、李歳霞アンサンブルの二胡演奏会が開かれました。伸びやかな調べのもと、新春にふさわしい5曲が奏でられました。曲目は

以下の通り。

1) 早春賦 2) ソオングオ  
ブライフ 3) 賽馬 4) エ  
デルワイス 5) 台湾メドレー。

新春講演会の参加者も流麗な音色に聴き入り、心も癒されました。

流麗な演奏に癒される”



## 5/6 sun 第21回 定時総会

- ◆日時 2018年5月6日(日曜)  
受付: 午後1時15分  
開会: 1時30分
- ◆会場 金沢市西部環境エネルギーセンター  
金沢市東力町ハ30-1  
電話 076-291-6641

主催: NPO 法人 世界の砂漠を緑で包む会

持続可能な発展(SDGs)を目的とした国連のシンボルマークが出来ました。1は貧困の撲滅。あらゆる場所、あらゆる形態の貧困をなくすること。2は飢餓をゼロに!食糧の確保と栄養状態の改善をするとともに、持続可能な農業の推進。

大きくは2030年への目標ですが、Think Globally, Act Locallyで、地球規模のことを考え、自分たちの地域で出来ることから始める、ということです。



### \* NPO法人世界の砂漠を緑で包む会のH30年度会費納入のお願い \*

会員の皆様には平素より多大のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ご承知のように、会の活動は、会員の皆様の会費及び寄付金で運営されております。会員の高齢化と共に会費も高齢化の傾向にあり、厳しいものがございます。景気が良くなっているとは申せ、実感が無いのが現状かと思えます。年明け早々、誠に恐縮に存じますが、30年度会費未納の方は、何卒納入下さいませお願い申し上げます。

一般会員 2,000円以上 企業・団体会員 10,000円以上

【振込み先】 ゆうちょ銀行: 記号00710 6 番号050850

他行からの振込み: 金融機関コード9900 店番: 079 (店名0七九店 ゼロナナキユウ店)

当座口座番号: 0050850 受取人名: セカイノサバクヨミドリデツツムカイ

【振込み先】 北国銀行金沢西部支店(普) 345591

特定非営利活動法人世界の砂漠を緑で包む会 代表大沢俊夫

## 活動NEWS

## 「園児も喜ぶ森づくり」をめざして

副会長 森田 伸彦

平成23年8月から活動を始めて7年目を向かえている森林公園の状況報告です。太い笹の藪と大きな松の倒木で前の見えなかった荒廃地へ、月・木の週2回、2人から5~6人の高齢者が立ち向かい、年間延べ200人程が作業した結果、笹はほぼ無くなり、草に替わった。その後蔓延したクズも細く小さくなって広々感が強くなった。

平成24年の秋から、子供達との植樹も6年間続けることが出来た。モミジ・コナラ・コブシ・シラカシ・サクラを527本植えた。一部は枯れたり、折れたりもしたが、大きいものは3m程に育って、森の原型らしきものになってきた。

長年放置されていたため、不用木・枯れ木も未だ多いが、少しずつ明るく、安全な里山を創って行きたいと取り組んでいる。その一つにはサクラ園の一部も対象区画に含まれていることから、枯れたものは切り、新たに植えることを昨年からはじめた。ソメイヨシノ・カワズ・シダレも植えたが、どうなるか、楽しみ。また、日当たりが良くなり、藪の中から生き返ったツバキが大きくなり、花を付けている。ムラサキシキブ・ササユリも育っている。一面に薄紫のスミレが咲き誇る区画も出現した。さらにモミジ林を整理したことで、春に一面赤い「じゅうたん」を敷いたように、種が芽を出し、見事『公園』となる。これらは毎年の楽しみとなって来た。



当面は「植えた木を育てること」、下刈りをして、ツルを切り、雪起こしをして人工林を造る。春はやさしい緑と花を。夏には風の通る日陰を。秋にはリスがどんぐりを取りに来て。冬には整然と伸びた木の外は、真っ白な雪原となる。春から秋まで、子供達が安全に遊べる公園にすることを最終の目標にしている。公園で楽しく遊んだことを身体に覚えさせた子供達が、成長してつぎの世代の為に、森づくりを引き継いでくれる若者が現れたら、我々の努力の評価と思い、これに勝る喜びはない、と今から密かに期待している。

今年も下刈りをして、秋に植樹する予定です。鎌で木の周囲の草を刈る作業には、是非多くの方に参加して頂きたいをお願いします。汗を流した後は爽快ですよ。(6月~10月の内の数日で、日程は電話で確認して下さい)

## 法人のCSR(社会的責任)の重視を!

## 2018 NPO法人 世界の砂漠を緑で包む会の講演会

海外をめざす  
発想は素晴らしい

講師 北 實氏

去る2月18日(日曜)午後1時30分より、金沢市西部環境エネルギーセンターの会議室で、NPO法人世界の砂漠を緑で包む会の新春講演会と二胡演奏会が開かれました。

講演会では「経営者からボランティアに関わって」という演題で、「角間里山のみらい」の副理事長の北實氏(元テレビ金沢社長)が要旨以下の通り語りかけました。

〈中崎さんによる北講師の経歴紹介〉昭和16年、松任の漁師の家に生まれた。地元の金沢大を出て、北國新聞社に入社、事件記者として夜討ち、朝駆けの仕事。その後、営業部長として事業、販売を担当、常務、専務となった。

61歳で、テレビ金沢の社長に就いた。その時、今日会場に来ている2人(取材-中崎、カメラ-辻本)とコンビを組み、ドキュメンタリー番組を作ってきた。67歳で退社、各種団体から役員の声がかかり、いま環境団体で裏方に徹して頑張っている。

## ■ 番組の質悪く法規制の動き

振り返ると、中国の全人代の後に中西県知事と「青年の翼」事業を進めたりした。日中国交回復など大きな変化もあった。記者としては態度も大きく、どちらがヤクザか警察かわからない、そんな時代であった。私はその後営業部長として「金を稼ぐ」役回りとなった。当時の民放(テレビ)の番組の質の悪さが表面化して、政府から圧

力をかけられ、公的規制の動きが出てきた。地元選出の国会議員等に法規制を止めてほしい旨要望し理解もしてもらえた。

## ■ 「過疎」問題でギャラクシー賞

テレビ開局時は資本がかかるデジタル化対応が急務で、視聴率、広告収入、番組の質の3目標として掲げ、地域の一番局をめざした。番組構成上10~13%ほどの枠があるので地方から発信できる優れた番組を作ろうと決意した。プロデューサーとして、地域やふるさと、白山、自然に目を向けること、現在も続いているスタッフとアジアと世界に評価される番組をめざした。「過疎」問題、金沢物語、交番物語などを検討・制作し、多くの知己を得た。「田舎のコンビニー軒の商店から見た過疎の4年間」では番組評価懇談会からギャラクシー賞を受賞した。

## ■ 番組制作通じ地域に根差す

この間、北國100周年、テレビ金沢5周年事業もあり、作家の五木寛之氏、なかにし礼氏、船村徹先生(文化勲章受章)の後の弦哲也さん、歌手の川中みゆきさん、水森かおりさんなど多くの人との出会いがあった。これらの方々とは地域興しのイベントを通じてということになるが、「利家とまつ」の大河ドラマ等ではNHKの海老沢会長とも知り合いにさせてもらった。

## ■ 公益性が問われる時代に

その他エピソードは尽きないが、「世界の砂漠を緑で包む会」の切り口がすごい。四海波静かという安直な発想ではなく、海を越えて活動する、その考え方が素晴らしい。

いま様々な団体で公益性やガバナンスが問われている。とりわけCSR(企業の社会的責任)が大事だ。今後は協賛企業もあると思うが会計処理を透明化し、次の世代を担う若者を育成すること、また女子力を生かし、リーダーに登用することも常用である。自分の経験の話をさせてもらったが今後の貴会の発展の一助となれば幸いである。